

△二黒土星壬寅▽



編集兼発行人 朝日町役場 印刷所 両越印刷 定価 六円 送料 六円



明けましてお目出度うございます
昭和三十七年の元旦を迎えまして新
春の御挨拶を申し述べ、機会を得ま
したことは、誠に欣幸の至りに存じ
ます。

本年は国の予算を見ましても財政
的に調整の年だと見られ、経済界も下
半期は上向き状態、不安解消の年
となるものとも思われます。

当町は幸いに鉄道複線化の工事や
国道八号線工事の一部着工に伴いま
して事業ブームとなり、国内経済の影
響にかゝり、中小企業の活動により希
望の年となる喜ばしい年とも相成る
訳であります。

町財政も前年度の歳入増をしのぎ、
減税を行い、個人経済の生長率とは
逆に中位程度の所得者には税負担の
軽減となり、従って町民各位の生活も
健全な生長を見ることになりました。

懐古しますれば、昭和三十六年こそ
朝日町にとっては丑歳にふさわしい
重厚の歳だったと云えると思えます
先づ朝日橋の完工に引き続いて都
市計画道路の第一着手である月山道
路の工事に取組みました。

更に高橋橋の架替、山崎、南保、
宮崎の国道、国道の改修に、宮崎、
温泉町、清水町、桜町等国道、県道
の舗装など道路の整備をまいり

ましたが、境川、笹川、小川上流の
崩壊土砂の流出は近年増大し、海岸
浸蝕又甚しかったので、大屋、草野
赤川はそれぞれ国費を以て護岸の
完壁に力を注いだ訳であります。

年頭の辞

朝日町長 本村 本松

河川については前述の三川共本年
度において砂防施設をしていただく
よう国、県に懇請していただきます
体において可能と信じています。

金剛川の決壊に對しましては、県
の配慮により工事の進められたこと
は心嬉しく存じています。

教育優先の考え方から進められた
統合泊中学校の建設は、幸いに本年
度中に第一期工事として三百坪が完
工しまして四月からは泊教場の一部
が授業開始の運びとなり、泊小学校
が現在の旧泊中学校々舎に移転し、
従って県立泊高等学校が余裕ある校
舎を利用し、商業学校の増設をして
いただくよう県教委においても御了
承を得る運びになっているのであり
ます。

産業面では用水改修、農道の新設
等の土地改良に關して、県の協力と
配慮を仰ぎ、奥地林道、棚山林道等
の施工も県及び営林局の御心配に依
り進捗して参っています。これ又
本年度はこれら林道は一応完成を期
し、更に石谷・池原間の林道に手を
つけ、城山方面にも林道として促進
したいと思っておりますが、更に下山
沈砂地、南保上井用水、小川合口用
水工事等の着工をも考えています。

本年は特に大家庄地区の区画整理も
今後農業施策に十分な方向を示すも
のとして期待をかけている次第であ
ります。

尚煙草、蔬菜の栽培、家畜増産、
果樹増植等の多目的農業経営への転
換に力を注ぐ方針であります。

境川の電源開発も第三発電所の完
成が年末達成しましたので、更に未
開発地区への開発に努力致したく、

中小企業の育成に、朝日岳、城山に
観光施設の開発にと三十六年にか
けた力を更に大きく本年は延ばしたい
考えです。

幸いに母子寮の改築に保育所の増
設を見たのは社会福祉の保護施設と
して喜ばしいことで、境保育所も現
に建設中で、本年四月には開所され
る予定であります。

泊病院の産児室の新設に伴う泊病
院の改善にも新風が吹き込まれたこ
とと存じますとともに、最近利用度
も高まり喜びに堪えません。

県介、下水の処理にも本年こそ新
施設により環境衛生に十分な処置を
講ずるつもりであり、庶民住宅の建
設にも手をつけたいものであります
し尿処理所は旧郡内二市三町組合
で前年度事業として決定、工事契約
が結ばれ、飯野地区に本年中には完
成を見る予定でありますので、し尿
処理の心配も一応解消致し、ましよう
最後に、役場事務も町民各位のサ
ービス機関としての窓口事務の改善
を図り、住民のための施設として拡
充致しますために、事務改善を二期
に分けて実施致す所存でございます
から各位の御理解とお力添えをお願
い申し上げます。

以上三十六年に於ける町事業は前
向きの形で前進して参りましたので
その一般を御報告申し上げ、本年も
亦その継続並に新規事業に処する概
略を申し上げ、前年度各位から
寄せられた好意と協力に對し感謝
申し上げ、本年は又格段の御助勢と
御鞭撻をお願い致しまして年頭の挨拶
と致します。



希望に満ちた 新年を迎えて

朝日町議会議長

清水伝平

朝日町のみなさん、明けましておめでとうございます。
新しい年を迎え、こうして皆さんとともに喜びを分かち合い、祝盃をあげる事が出来ますことは何と有難いことではないでしょうか。
まづもって感謝したいと存じます。さて、私は「一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり」というあの云い古された言葉を口にせずにはいないのであります。元旦を迎えてこの格言を口ずさみますと、何となくこう新しい希望に満ちた感じをいだいて、意義あることをすべき年が来たように思われるのであります。すると若々しい気分にあふれて、過去の失敗を帳消しにして、もう一度第一歩から歩み出す機会が今来ているのだという気分を味わうことができます。

そこから具体的に一年の計も生まれようというものであります。
皆さんもご承知の如く、わが朝日町は、町村合併によつて新しく大朝日町制をしてからまだ七年にしかならない、いわば幼児期にある町ということができます。それだけに為すべきことも山積しているわけでありますが、なにかんづく町制の改革はぜひ断行されねばならぬもののひとつと信じております。
例えば、数年前までは、オラが町オラが村でそれぞれ独立していた自治体が一語になったのでありますから、にわかにこれを改革しようとしたところで出来るものではありません。

五年なり、十年なり、或いは二十年という長い年月をかけて努力してこそはじめて、立派な町制を確立しうるものと思ふものであります。懸案の統合泊中学校々舎の建設も、第一年度は一部完成しましたが、第二年度以降に落成しなければなりません。

町村合併当初から叫ばれておりますところの新庁舎の建設にいたしましても、都市計画道路の整備舗装の問題にいたしましても、すべて私達町民一同が和と努力の精神に徹することから出発しなければ、これらをスムーズに推進することは出来ないと思ふのであります。
更に、年とともに増加の一途をたどる人口問題、これに伴う住宅問題、簡易水道問題、下水道問題、青少年問題に伴う社会教育施設の充実問題等々、私達の前には実行しなければならぬことが山積みしているのではありません。

これを見ても生優しいものは一つもありません。これらの問題に対処していかなばならぬということは私達にとつても、並大抵のことではあります。
しかし私達は、あわてず、急がず、一歩一歩と力強く前進して行きたいと考えております。

皆さま方より一層のご協力をお願いしまして、簡単ではありますがこれをもちつて私の年頭のご挨拶といたします。

棚山・羽入の 冬期分校開かる

山崎小学校では十二月から二つの冬期分校を開校した。棚山分校は一年から六年まで八名で、九里治樹先生、羽入分校は一年から三年まで十七名で、水島里美先生が明年三月まで四ヶ月、指導にあたられる。本校までの距離が遠く、通学に悩んだこれらの児童が両先生を中心として家庭的な雰囲気の中にこの冬を健やかにすくすくと伸びることであらう。

祝成人式

日時 一月十五日午前十時
場所 泊中学校講堂

第十四回朝日町成人者数

男 二四五名
女 二八四名
計 五二九名



三十七年度保育所 入所申込取扱要領

一、保育所入所者について
保育所は日々保護者の委託を受けて保育に欠ける児童を保育することを目的とする児童福祉施設である。保育に欠ける児童とは次の場合をいう。

- (一)保護者が働いているために、その児童が家庭で充分な保護養育を受けられないもの。
- (二)母親が長期の病気であるか又は病人の看護のためにその児童が十分な保護養育を受けられないもの。
- (三)小家庭に多人数住んでいるため児童の生活環境が悪いもの。
- (四)以上の家庭に保育能力のある祖母その他の家族があつて保育できるときは該当しない。
- (五)保育所の定員について
三十七年度保育所収容定員は次のとおりである。

泊第一(一一〇) 泊第二(六〇) 赤川(四五) 桜町(六〇) 笹川(六〇)

昭和三十四年度 小学校入学児童健康診断

朝日町では十二月中旬以来、昭和三十七年度小学校入学児童の健康診断を地区別に行つたが、泊小学校入学児童百三十八名の健康診断は十二月十四日泊小学校において校医松倉春藤(内科)、橋(外科)、池原(眼科)、魚津(歯科)等の各医師によつて行われ、その結果各部門における意見を総合すると、新入学児童の体位は逐年向上の傾向にあつて、これは日本家庭における食生活が戦後急速に植物性蛋白質から動物性蛋白質に移行し、これを多分に摂取するようになった為であるとの事であった。

(写真は泊小健康診断風景)

六〇) 大家庄(八〇) 小川(五〇) 境(六〇)

右の収容定員を超えて収容してはならないこと、一に掲げる保育所入所者についての資格条件のないものの入所は法令で禁ぜられていない。

三、保育所の入所申込について
法令で定められた申込書があり、家族の状況、年令、続柄、職業及び保育に欠ける具体的事由を記載して朝日町長に提出するものとする。

なお用紙は各保育所に備えつけ母の会と連絡をとることにしたい。

申込期日は二月一日から十日まで
四、保育所入所決定について
申込書に基き、家庭調査書を作成し、要否事項の認定及び課税状況の調査をなし、民生児童委員等の機関にはかり、徴収額、(保育料)及び入所者を法定し通知する。

五、その他
保育所は社会労働施設として児童福祉法の適用を受け、多額の補助金の交付を受けている。したがって、会計における国の監査が厳しいので保育所入所申込者は一に掲げた事由に基き、真に保育に欠ける児童であることが望ましく、亦保育所の目的でもあるので以上のことを理解し協力されるよう望みます。 民生課

おわび

十二月号「あさひ」の成人者名簿に左記の方々を本誌に追加、訂正して深くお詫び致します。

追加

川上章(大家庄) 谷口雄三(南保) 岩谷一樹(宮崎) 池崎光子 高橋アキ子 島田政一 村上義則(泊一区) 野末鉄有 川端柳太郎(泊二区)

訂正

広田静代(静雄(五箇庄) 水野收作(水野(山崎) 寺田良子(寺崎(泊二区) 篠田征二(藤田(泊三区))

まえがき

収入及び支出の状況

収入及び支出の状況について申し上げますと一般会計においては昭和三十四年度決算において歳入総額一三六、五三一千円、歳出総額一三四、六五二千円、差引一、八七九千円が翌年度へ繰越しとなっており、昭和三十五年度決算においては歳入総額一六一、三一八千円、歳出総額一五九、〇五四千円、差引二、二六四千円の黒字見込となっております。

これを款別収支の別及び構成比などについて申し上げますと、表一のとおりとなっておりますが、収入については昭和三十四年度は前年度に比し町税においては主として目的税の減少により二、五四一千円の減となっておりませんが、地方交付税においては四五五千円の増、国庫支出金四九四千円、県支出金二、七二二万円、町債一、〇〇〇千円、その他で四、六九三千円合計一〇、八二三千円の増となっております。

昭和三十五年度収入につきましては三十四年度に比し税収入において個人法人共に大巾の伸びを示して九、二二二千円の増、地方公付税においては単位費用の引上げ等から五、五

[illegible]

九一〇千円の増となっており、固定資産税二、六七二千円の減、木材引取税等で一六千円、目的税で一、七四五千円の減、合計二、五四一千円の減となっております。

三十五年度は未曾有の経済成長を示した年度であり、従つて税収入においても町民税では五、三五・一、固定資産税二、五二・三、軽自動車税一、二三・三、電気ガス税では境川発電工事分の増等により二、〇〇・三、木材引取税等で一一・一の増と急激に上昇致しましたが、煙草消費税では発電所工事等が終盤になったこと等により五九・一の減及び目的税では一九・八の減となつておりまして、これを町民一人当りの税負担についてみますと総額においては三、八八・四、町民税のうち個人分では一、一六・二、固定資産税のうち土地家屋分では一、一五・九円となつております。(表二)

次に歳出について申し上げますと、款別については表一に示したとおりであります、これを性質別構成の面から見ますと三十三年度の消費的経費五八・一％に比べ三十四年度は五二・四％、三十五年度は四七・三％と総額に対する割合が漸減しており、投資的経費では三十三年度の二

表二
税 收 入 の 状 況

	34年度	35年度
(1) 町民税	21,872	27,223
(イ) 個人	20,410	24,797
(ロ) 法人	1,462	2,426
(2) 固定資産税	34,449	36,972
(イ) 土地	12,925	13,197
(ロ) 家屋	11,116	11,531
(ハ) 償却資産	7,072	8,274
(ニ) 交付金納付金	3,336	3,970
(3) 軽自動車税	589	712
(4) 煙草消費税	5,922	5,331
(5) 電気料金	6,648	8,651
(6) 木材引取	123	132
(7) 目的税	4,066	3,868
(イ) 入湯税	1,641	1,368
(ロ) 水利地益税	2,425	2,500
(8) 旧法による税収入	2	4
計	73,671	82,893

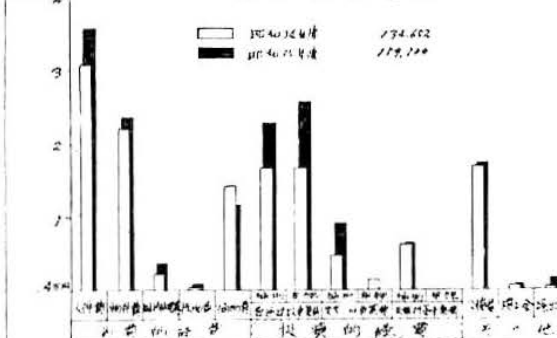
表四
特 別 會 計
國民健康保險會計

歳入	34年度	35年度
国民健康保険税	11,687	12,406
国庫支出金	8,157	9,397
県支の金	114	139
その他	2,852	2,579
歳入合計	22,783	24,521
歳出		
役場費	1,921	1,972
保険給付	17,424	18,741
保険施設の	773	911
その他	456	537
歳出合計	20,574	22,161
歳入歳出差引	2,209	2,360

特別会計について、健康保険会計は
（表三）

歳入		34年度	35年度
使 用 料		45,371	44,038
繰 入 の		500	1,500
そ の 他		553	1,592
歳入合 計		46,424	47,130
歳出			
病 院 費		41,523	42,209
準 看 護 費		475	429
成 所 費			
公 債 費		4,879	4,103
繰 上 充 金		7,367	7,820
歳出合 計		54,244	54,561
歳入歳出差引		△7,820	△7,431

表三	性 別 經 費 調
----	-----------



昭和三十五年度末
事業月間平均世帯数三、二〇〇世帯
療養給付件数 一三、八九四人
利用件数被保険者一人当二・九八件
療養給付費 二、七一五円
役場費(事務費) 一四一円
助産費(一件当五〇〇円) 一三六件
葬祭料(〃 五〇〇円) 一四九件
保険税一世帯当り 三、九四一円
被保険者一人当り 九〇七円
国、県支出金 六七六円
となっており、泊病院の収支の状況について表五のとおりとなっております。

◆新しい農業の

生産計画をたてましよう

「新しい時代の新しい農業への転換をどうしたらよいか。」この言葉がここ一兩年よく云われてきた。そして三つの問題を挙げてこの対策を考究されている。

第一は農業所得が他産業のそれに比較して著しく低いこと

第二は農業の生産性が低いこと

第三は零細経営とそれを加重する耕地の極端な分散

この三つの問題点が重なり合って現在農業の暗さをあらわしている。この対策として農業構造の改善、つまり経営規模の拡大又は他産業への転出促進による自立経営農家の育成

農事教室

或いは経営の共同化と作業の分業化を巧みに組合わせた協業経営、協業組織等の育成をはかり、生産性の向上、単位面積当りの生産量及び農業機械化により単位労働当りの生産量の増大を期し、他産業従事者の所得と均衡がとれるようにして農民の福祉を図る農業基本対策が今日農業基本法となつて農業の発展を図ろうとしている。

そこでこの三つを合わせて考えてみると他産業と均衡するような所得なり生活を確保すると云うことを考えなければならぬ。

そして、さらに作るものは今後の農産物の需要の方向に沿うようなものを生産出来るように考えて行かなければならない。

即ち今後はだんだん経済が成長発展

し、国民の消費生活が向上すると、米(澱粉)の消費が減じて高級な食糧の蛋白質(肉、卵、牛乳)及び果物が三、四倍程度にふえるものとみられ、野菜でもトマト、カンラン、ピーマン、アスパラカス、セロリ等の西洋野菜が急速に伸びる。

この需要に応じて米以外の農畜産物の生産計画を農家自らが樹るべきである。

朝日町の農業計画をたてるには各生産組合毎に米、畜産物、夏冬蔬菜、球根花卉、果樹、飼料作物等の生産と販売をどうするか。

米を主体として乳牛、豚、ニワトリ、和牛、蔬菜、チヌーリツブ、ニンニク、マツシユルム、シイタケ、煙草、果樹等を米の収入位にまで引き上げるように部落自らが協議し、計画と目標を定め、自分達の農協の生産指導事業とせしめて、農協にこの推進を図らせるため強力な協議会を設置し、各部落の計画を審議、販売面の担当又は援助を行う。

町では農協毎の生産計画をとりまとめ、審議委員会を経て大きな援助をなし、朝日町農家の所得倍増と生活の安定向上をはかるべきである。農業基本法が農業所得を倍増にはしてくれません。

指導と資金の援助しかありません。農を愛し農をもっと一すじに生活を考える農民よ、自分一人で農業の発展は出来ないのですから、心と心の合うグループを組織し、計画と目標に到達するよう研究に研究を重ね、他産業に遅れない経営のあり方を企業的にも考えなければなりません。

(朝日町農業改良普及所)

山崎校下「十日会」発足

今度山崎校下に十日会という会が生まれた。これは山崎校下在住、在職の希望者が年四回十日会を定日として小学校に集り、会員の教養、親睦融和を目的として意見発表や討議懇談を進めている。そして輪番幹事制により時間厳守、会員の職業、趣味の問題、時事、地域の問題等産業、経済、文化、芸能と幅広い面を取り上げている。同校下には大正十一年六月十日の「時の記念日」には自修会が生まれ、毎月十日早朝五時に集会をもち、昭和二十二年十月まで三百五十回も続いた伝統があり、その後中断されたが、今度の十日会はその復活したもの云える。

朝日町の人口及び世帯数

(昭和36年10月1日現在)

地区名	世帯数	人口	男	女
中庄	106	565	280	285
家崎	538	2,792	1,383	1,409
大山	572	2,736	1,256	1,480
山南	466	2,329	1,120	1,209
五保	476	2,279	1,102	1,177
宮崎	1,732	7,856	3,601	4,255
境	456	2,199	1,032	1,167
	314	1,636	778	858
朝日町	4,660	22,392	10,552	11,840

詩

土

間部善治

土は黒く
土はやわらかく
土は温い

土は種を抱き
芽を育て
実を実らせる

土は劫初からの流れの中で
時には氷河の底深く眠り続けながら

宇宙の瞬めきの交響に耳を傾け
大自然の愛情を信じ
その愛情にあこがれ
おのれのすべてを捧げてきた

土は純情で
土は無口で
土はさびしがりや

土はきまぐれ
あまのじやくで
きみじかだ

土は二十億年の時の流れの中で
大自然のきびしさにひるまず
疾風に乘って空にあがらう

頑として海に背き
時に火を吹いて灼熱の海にひろがり
あらゆる生物の生存を拒否し続けてきた

土は二千年の人間の歴史の中で
哀歌を知り尽して語らず
無窮の大地となつてゆるがず
今や、ひっそりと 謙虚に静まり返

あさひ歌壇

ついでに。

(勅題「土」に寄せて)

泊短歌会例会詠草

秋深み記州みかんの香をかけば病める命のいとほしきかも

大間知 とみ

深山辺の崖道はろかそのあたりひとひら白き雲の動かず

扇谷 利雄

大根や白菜高しと会話する人声絶えまた枯葉散る

下山 喜太郎

銀杏の実のはろにがし少年の日の還り来る秋を寂しむ

阿部 信子

山峡のかたに見ゆる海青く遠くほのかに能登はかすめる

中野 宏

ゆえ知れぬ重き心にあたえかねてこがらしの吹く野に出でて行く

九野木 芳子

明暗をくつきり映す山あいにしるじろ落つる七重の滝す

中易 忠之

水すみてせうらぐ川の崖の道君と来て歩む朝のがしき

木村 節子

崖のふちの笹の群笹ゆるがして流れる水のさやけきはよし

越間 美智子

賑わしき街をさけ来て川すその水のしずもる虚しさに立つ

間部 善治